

中止の市文学館催し オンライントークに

「インフラ文学展」12日に内容紹介

市立小樽文学館(色内1)は、政府の緊急事態宣言の発令により中止となった「後志インフラ文学展」をオンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を使って紹介するギャラリートークを12日に行う。宣言により休館となり、「お蔵入り」した同展を「もった

いない。何とか知ってもらいたい」と企画した。同展は小樽開発建設部が協力。鉄道やトンネル、船舶など後志の交通が登場する文学作品を紹介する目的で5月22日～6月20日に予定されていた。ところが、緊急事態宣言が延長期間を含めて5月16日～6月20日



となり中止を余儀なくされた。

後志インフラ文学展のために展示された模型と亀井志乃館長

展示では、伊藤整が「若い詩人の肖像」で旧手宮線(幌内鉄道)を、小林多喜二が「転形期の人々」で小樽港を、松本清張が「黄色い風土」で札幌―小樽間の国道を描くなどさまざまな文豪が作品に盛り込んできた経緯を紹介。銭函

朝里間の函館線沿線をイメージした模型(縮尺1/50分の1)も展示するなど充実の内容になっていた。12日は午後2時開始。文学館の亀井志乃館長と鉄道愛好団体「北海道鉄道観光資源研究会」(札幌)の永山茂代表などによるトークセッションと「後志ツーリズム」の紹介を行う。亀井館長は「交通の発達が作品世界に反映されている視点を少しでも知ってもらえれば」と話している。

申し込みは11日までにフェイスブックの「後志インフラ文学展」から行う。問い合わせは文学館 ☎0134・322・23888へ。

(平田康人)